

シカ対策部会の報告

1 議題

- (1) 早池峰シカ監視員の活動結果について
- ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果 → 資料 4-1
 - イ 早池峰シカ監視員報告書取りまとめ → 資料 4-2
- (2) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について → 資料 4-3
- (3) 現状と今後の取組について → 資料 4-4
- (4) 早池峰センサーカメラ調査結果 → 資料 4-5
- (5) 防鹿柵内外の植生モニタリング結果 → 資料 4-6
- (6) 食痕調査・植生モニタリング結果 → 資料 4-7
- (7) 早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要 → 資料 4-8、9
- (8) その他

2 主な質疑・意見交換内容

(1) 早池峰シカ監視員の活動結果について

ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果

9台のカメラ設置によるシカの生息状況調査の結果、3つの全エリア<河原の坊(940m以上)、小田越(1,180m以上)、その他(1,230m以上)>で撮影頻度が増加傾向であったことや高標高域での撮影頻度が増加傾向にあることを説明し、特に意見等は無かった。

イ 早池峰シカ監視員報告書取りまとめ

花巻地域では、夏場に1,700m付近で痕跡が多数あったことや、宮古地域では、一部の防鹿柵内でシカの姿が撮影されたこと、薬師岳の防鹿柵内の植生は回復が見られることを説明し、特に意見等は無かった。

(2) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

平成30年度から東北森林管理局と連携して設置を開始し、柵の内部では植生の回復が見られることや令和3年度以降の設置個所の一部において、柵内への侵入が見られることを説明し、特に意見等は無かった。

(3) 現状と今後の取組について

早池峰山周辺地域では、シカの生息数が増加しており、食害が増加傾向にあることから今後の対策のあり方の検討が必要であることを説明し、平成30年度から東北森林管理局と連携して設置を開始し、柵の内部では植生の回復が見られることや令和3年度以降の設置個所の一部において、柵内への侵入が見られることを説明し、主な意見等は次の通り。

(主な意見等)

- ・防鹿柵内へのシカの侵入原因は、緩みや柵下部からの侵入も考えられ、これらへの対策が必要ではないか。
- ・調査結果に基づき、守るべきところに優先順位をつけたゾーニングが必要ではないか。
- ・専門家による技術的アドバイスの拡充をし、複合的な対策を検討してはどうか。

(4) 早池峰センサーカメラ調査結果：県立博物館

高標高のある地点の出没頭数が急激に増えていることや、中腹当たりの柵内侵入が見られることについて説明があり、特に意見等は無かった。

(5) 防鹿柵内外の植生モニタリング結果：県立博物館

柵外ではシカが嫌いな植物が増加し、好きな植物が減少していることについて説明があり、特に意見等は無かった。

(6) 食痕調査・植生モニタリング結果：県立博物館

門馬登山口で、国指定希少植物全てに食痕があり、数年以内に枯死する可能性があるため、緊急に保護が必要と考えられると説明があり、特に意見等は無かった。

(7) 早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要：東北森林管理局

巡視活動（山頂でのゴミ拾い等）、森林保護員の活動（保護林標識の補修等）、ニホンジカ対策の成果（捕獲成果等）の説明があり、特に意見等は無かった。

(8) その他

- ・文化庁にシカ部会に参加して頂くことの提案
- ・入山禁止期間を設けて、守りたい時期に捕獲をすることの提案

早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果について

【調査の概要】

- ・ うすゆき山荘～河原の坊地区に7台、小田越地区～早池峰山山頂付近、薬師岳登山道に9台のカメラを設置し、シカの生息状況を調査した。
- ・ 得られた画像を解析し、シカを同定した上で、撮影頻度（1日当たりの撮影頭数（撮影頭数／撮影日数））を算定した。
- ・ 「-」はカメラを設置していないことを示す。

1 撮影頻度の比較(同一個体による重複を除く)

(1)年度ごとの撮影頻度の比較

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	H30	R1	R2	R3	R4※	増減(R4/R3、%)	備考
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	2.64	2.16	1.55	1.33	0.60	45%	
	970	うすゆき山荘上流150m	S09	-	-	0.69	0.46	1.59	346%	
	1,050	河原の坊休憩所付近の県道沿い	S07	-	-	0.41	0.54	0.59	109%	
	1,065	ビジターセンター西側	S02	0.91	0.56	1.25	1.04	2.04	196%	
	1,180	河原の坊 (S-8から東側に50m移動)	S08	-	-	0.69	0.80	0.27	34%	防鹿柵設置
	1,250	河原の坊	S03	0.46	0.44	0.33	0.48	0.32	67%	5/19～10/27防鹿柵設置
小田越	1,420	河原の坊 御神坂	S05	0.17	0.10	0.48	0.37	0.51	138%	
	1,180	小田越下	I08	0.75	1.06	0.71	0.69	0.32	46%	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	1.18	1.17	1.58	0.57	0.54	95%	
	1,374	小田越一合目下草地	I19	-	-	1.68	0.97	1.64	169%	
	1,530	小田越二合目水場	I12	0.7	1.13	0.23	0.26	0.31	119%	6/8～10/26防鹿柵設置、柵内23回侵入
その他	1,530	小田越三合目草地	I16	-	0.89	0.62	0.60	1.10	183%	5/19～10/27防鹿柵設置、柵内3回7頭侵入
	1,230	門馬七号目	I14	-	-	0.13	0.44	0.41	93%	
	1,280	薬師岳オサバグサ群生地	I17	-	1.74	0.22	0.10	0.24	240%	6/8～10/26防鹿柵設置
	1,680	中岳山頂付近	I18	-	0.52	0.84	0.90	0.94	104%	
1,819	剣が峰	I20	-	-	0.49	0.54	0.15	28%		

※ R3年度より撮影頻度が増加した地点

(2) 令和4年5月～10月の月別の撮影頻度

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	設置期間	5月	6月	7月	8月	9月	10月	通期	備考
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	5/5～10/30	0.93	1.30	0.61	0.39	0.23	0.20	0.60	
	970	うすゆき山荘上流150m	S09	5/5～10/30	1.22	2.07	1.58	2.52	1.63	0.43	1.59	
	1,050	河原の坊休憩所付近の県道沿い	S07	5/5～10/30	0.26	1.20	0.35	0.75	0.35	0.50	0.59	欠測期間8/16～9/15
	1,065	ビジターセンター西側	S02	5/5～10/30	1.00	4.30	1.94	1.94	1.13	1.04	2.04	欠測期間9/15～10/6
	1,180	河原の坊 (S-8から東側に50m移動)	S08	5/24～10/12	0.00	0.57	0.29	0.16	0.23	0.08	0.27	
	1,250	河原の坊	S03	5/24～10/12	0.00	0.33	0.23	0.39	0.43	0.25	0.32	
小田越	1,420	河原の坊 御神坂	S05	5/24～10/12	0.13	0.73	0.90	0.48	0.17	0.08	0.51	
	1,180	小田越下	I08	4/22～10/29	0.23	0.67	0.52	0.26	0.27	0.10	0.32	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	5/7～10/27	0.13	0.87	欠測	2.57	0.33	0.26	0.54	欠測期間7/1～8/23
	1,374	小田越一合目下草地	I19	5/19～10/27	欠測	欠測	4.55	1.19	0.70	0.00	1.64	欠測期間5/19～7/3
	1,530	小田越二合目水場	I12	6/4～10/27	-	0.04	0.23	0.45	0.77	0.00	0.31	
その他	1,530	小田越三合目草地	I16	6/4～10/27	-	0.63	1.77	1.16	0.87	欠測	1.10	欠測期間10/4～10/27
	1,230	門馬七合目	I14	5/23～10/16	0.11	0.77	0.39	0.39	0.18	欠測	0.41	欠測期間9/29～10/16
	1,280	薬師岳オサバグサ群生地	I17	5/15～10/9	0.24	0.37	0.23	0.29	0.13	0.11	0.24	
	1,680	中岳山頂付近	I18	5/24～10/15	0.18	1.20	1.84	0.97	0.37	0.00	0.94	
	1,819	剣が峰	I20	5/30～10/9	欠測	欠測	欠測	0.20	0.17	0.00	0.15	欠測期間5/30～8/22

【凡例】

- 月別の撮影頻度のピーク (地点別)
- 撮影頻度が0.00
- 撮影頻度が3.00超え (昨年の最高値は、カメラS01で6月に2.93)

2 結果

○通期の撮影頻度

河原の坊：標高940m (カメラS01) は年々減少傾向だが、標高970m以上 (S08とS03は除く) では増加傾向である。

小田越：標高1,370m以下 (カメラI08、I11) では年々減少傾向だが、標高1,374m以上 (I19、I12、I16) では増加傾向である。

その他：標高1,680mの中岳山頂付近 (カメラI16) で徐々に増加傾向である。

○月別の撮影頻度

月別の撮影頻度のピーク：全てのエリアにおいて、低標高域では6月、高標高域では7月にほぼ集中している。(例年と同じ傾向)

撮影頻度が0.00の地点：10月に、高標高域 (標高1,530m以上の4地点) において撮影頻度が0.00になった。(昨年と同じ)

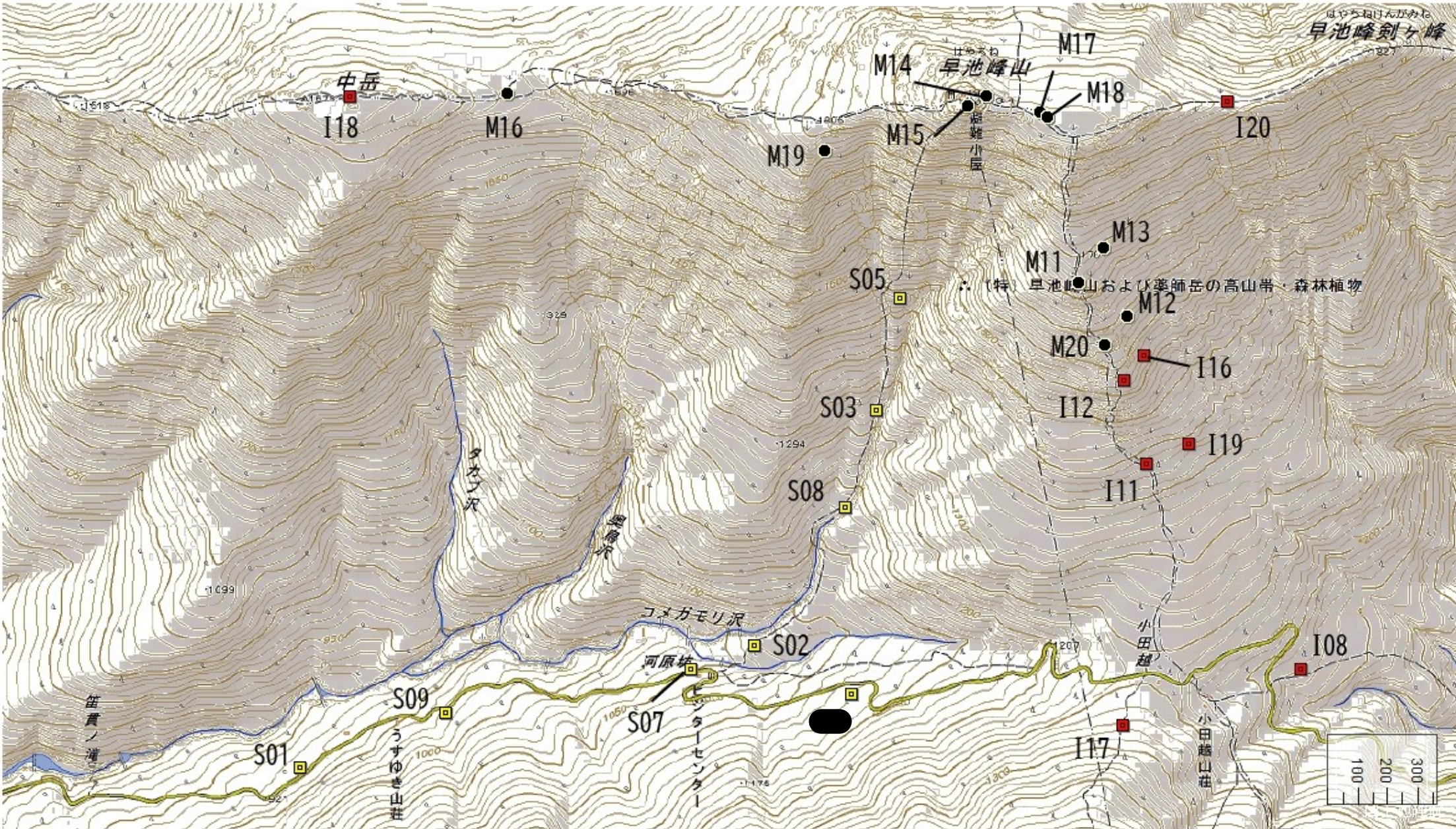
撮影頻度が3.00超の地点：河原の坊エリアの標高1,065m (カメラS02) と小田越エリアの標高1,374m (カメラI19) において、それぞれ6月と7月に、多数のシカが撮影された。

3 まとめ

昨年度と比較して、シカの撮影頻度が増加した地点は16地点のうち9地点であり、比較的、高標高域での撮影頻度が増加傾向にある。

また、防鹿柵を設置している地点の一部 (小田越と薬師岳) において撮影頻度が増加しており、柵内への侵入等が影響していると考えられることから対策を検討する必要がある。

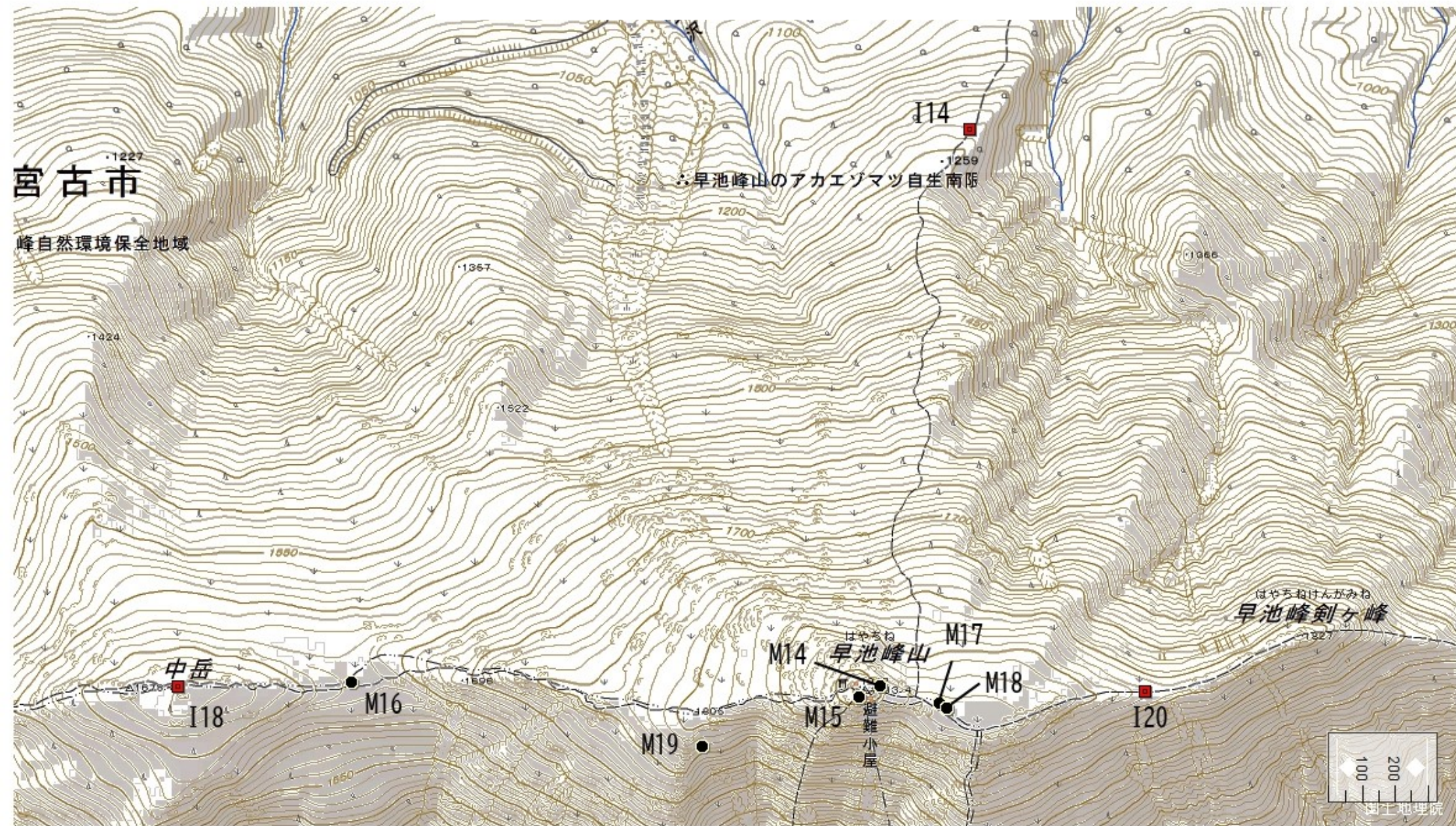
早池峰山センサーカメラ設置位置図（南面）



S、I：早池峰シカ監視員設置 M：県立博物館鈴木氏設置

国土地理院地図をカシミール3Dで描画

早池峰山センサーカメラ設置位置図（北面）



S、I：早池峰シカ監視員設置 M：県立博物館鈴木氏設置

国土地理院地図をカシミール3Dで描画

早池峰シカ監視員報告書とりまとめ

1 清水シカ監視員 [主に花巻地域を担当]

- (1) 5月5日
 - ・ 笹貫ノ滝から河原の坊までを巡視。シカの痕跡ほぼなし。
- (2) 5月24日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。足跡は数か所にあったが、明確なシカ道なし。
- (3) 6月9日
 - ・ 岳から小田越峠までを巡視。
 岳から河原の坊：痕跡が5月よりも増加。
 河原の坊登山口付近：シカ道が複数あり。
 河原の坊から小田越：多くはないが登山道に痕跡あり。
- (4) 6月21日
 - ・ 遠野市附馬牛町上附馬牛地内の林道を踏査。例年よりも目撃や痕跡が減少。
- (5) 7月3日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。標高 970mのうすゆき山荘付近 (カメラ S09)、標高 1,065mのビジターセンター西側 (カメラ S02) 及び標高 1,420mの御神坂 (カメラ S05) において撮影頻度が増加。なお、御神坂は侵入時期も例年より早い。
- (6) 8月19日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。自然公園管理員からの情報により標高 1,600m付近で**雄3頭**を目撃。また、標高 1,700m付近に痕跡多数あり。
- (7) 9月15日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。**雌2頭**を目撃。
- (8) 10月6日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。**雄1頭、性不明2頭の合計3頭**を目撃。
 うすゆき山荘付近：林内に多数の足跡あり。
 瞑想の滝沢左岸付近：**雄1頭を捕獲**。
- (9) 10月12日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。標高 1,420mの御神坂 (カメラ S05) では、8月下旬以降に雄のみが撮影され、標高 1,180m (カメラ S08) と標高 1,250m (S03) では9月中旬以降に雄のみが撮影された。(雌は、雄よりも早く低標高域へ移動したようである。) さらに、登山口から数百m間の登山道に糞が多数落ちていたことから、雄が雌を求めて高標高域から麓の林内へ移動してきたと考えられる。
- (10) 10月30日
 - ・ 河原の坊付近を巡視。カメラの撮影結果から、標高 970mのうすゆき山荘付近 (カメラ S09) から標高 1,065mのビジターセンター西側 (カメラ S02) 付近に、シカがまだ残っていた。また、雄が多く写っており、雌は少なかった。(雄が、雌を求めて移動を繰り返すためと考えられる)。
- (11) 11月11日
 - ・ 岳からタイマグラまでを巡視。標高 1,000m以下の県道沿線にシカの痕跡が付いていた。特に、岳から魚止ノ滝付近、宮古側の砥草林道下流域は多いと感じた。
 - ・ 笠詰沢右岸の尾根を踏査し、標高 850m以上で**雄2頭、性不明4頭の合計6頭**を目撃。雌の警戒時の発声が何度も聞こえたので、尾根上に複数のシカが群れを形成していると感じた。

(12) 11月25日

- ・ 岳から河原の坊までを巡視。目撃なし。落葉が多いため県道脇の痕跡確認は困難だったが、清廉の滝付近に痕跡があった。
- ・ 清廉の滝の沢兩岸を踏査。痕跡は少なく、目撃及び警戒時の発生も聞こえなかったのでシカが麓へ移動したと考えられる。(この場所は毎年春から初冬にかけて多くのシカが留まっている場所である。)
- ・ 笠詰キャンプ場から鶏頭山方向も痕跡は少なく、目撃もなかった。

2 井上シカ監視員〔主に宮古地域を担当〕

(1) 4月9日

- ・ 県道ゲート(宮古側)から早池峰東麓を巡視。雄1頭、雌2頭の合計3頭を目撃。

(2) 4月18日

- ・ 県道ゲート(宮古側)から早池峰東麓を巡視。目撃等なし。

※4月23日(巡視日外)に荒川高原線で雌1頭を捕獲。

(3) 5月24日

- ・ 小田越から早池峰山頂・中岳を巡視。中岳鞍部付近に複数の足跡あり。

(4) 5月30日

- ・ 小田越から剣が峰を巡視。痕跡等なし。

(5) 9月3日

- ・ 小田越コース2合目草地から3合目草地を巡視。目撃等なし。

8月17日に、県が設置した防鹿柵内で網に絡んだシカの死体を1頭確認。

なお、柵内への侵入原因は、飛び越え易い高さになっていたためと思われる。

(6) 9月25日

- ・ 小田越から剣が峰を巡視。目撃等なし。
- ・ カメラの撮影結果(井上監視員の確認)では、7月10日から9月22日までに、小田越2.5合目の県設置の防鹿柵内にシカの姿が12回写っていた(個体重複は不明)。

(7) 10月15日

- ・ 小田越コースから早池峰山頂・中岳を巡視。網走コース上部で薬師岳登山道沿いに生息しているオサバグサの食害を確認。一方、薬師岳の防鹿柵内の植生は回復がみえており、柵の効果は大きい。

(8) 10月16日

- ・ 小田越～早池峰剣が峰を巡視。目撃等なし。

(9) 11月2日

- ・ 県道25号線、タイマグラ～小田越を巡視。県道及び砥草林道で雄2頭を捕獲。また、雌7頭を目撃。

(10) 11月22日

- ・ 県道25号線、タイマグラ～小田越、荒川林道及び砥草林道を巡視。各所で雌シカを合計5頭目撃。砥草林道(高桧山林道)の標高850m付近にシカが残っている様子。標高1,000m以上には痕跡なし。また、11月の早池峰東麓のシカ状況は次のとおり。
上旬：小田越含めて広範に生息
中旬：越冬地への移動時期。標高1,000m以上にいる数が少なくなる。
下旬：標高1000m以上はほぼいなくなり、標高800m付近に留まる個体がある。

※ 残り2日分の結果については、今後(2月に)監視実施予定のため掲載なし。

早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

1 防鹿柵設置の経緯

平成30年3月に開催された早池峰地域シカ対策部会において、早池峰地域の高山植物をシカの食害から守るための防鹿柵の設置について提案を受け、平成30年度から東北森林管理局と連携して高山植物の群生地等に防鹿柵を設置している。

2 令和4年度の設置概要

令和4年度の岩手県及び東北森林管理局による防鹿柵設置概要は以下のとおりであり、設置の総延長は1,540m（岩手県分750m、東北森林管理局分790m）となっている。

	位置	場所	期間	概要	備考
岩手県	A	河原の坊	R4.5.19～10.27	3か所（周囲15m、35m、50m）	H30新設
	B	小田越2合目	R4.6.8～10.26	1か所（周囲340m）	R1新設 R2 150m増設
	C	小田越登山口	R4.6.8～10.26	1か所（周囲70m）	R1新設
	D	薬師岳登山口	R4.6.8～10.26	1か所（周囲40m）	R1新設
	E	県道25号線沿い	R4.6.8～10.26	3か所（周囲40m、70m、90m）	R2新設
	計			9か所750m	
東北森林管理局	ア	門馬	R4.5.19～10.27	2か所（周囲30m、70m）	H30新設
	イ	河原の坊	R4.5.19～10.27	3か所（周囲50m×2、150m）	H30新設 R1 100m増設 R3 50m新設
	ウ	小田越3～4合目	R4.5.19～10.27	1か所（周囲440m）	R1新設 R2 290m増設
	計			6か所790m	

3 結果

令和4年度の防鹿柵の設置効果については、鈴木まほろ委員が、別資料「防鹿柵内外の植生モニタリング結果」により報告しているので記載しないが、これまでの設置結果から以下のことが明らかである。

- 柵を設置した内部では植生が回復しており、食害防止に一定の効果がある。
- 雪融け後すぐに設置しなければ食害は防げない。
- 令和3年度以降、河原の坊、小田越2合目及び小田越3～4合目において、網の緩みや支柱の傾き等、高さ不足を原因とする柵内への侵入がみられている。（令和4年度は、高さがしっかり出るように注意して設置したが侵入されている。）

【参考：防鹿柵の設置期間（県設置分）】

- H30：8月27日から11月1日（67日間）
 R1：7月22日から10月24日（95日間）
 R2：5月26日から10月28日（156日間）
 R3：5月20日から10月29日（163日間）
 R4：5月19日から10月26日（161日間）

4 今後の対応（案）

結果（a～c）に対する今後の対応案は以下のとおり。

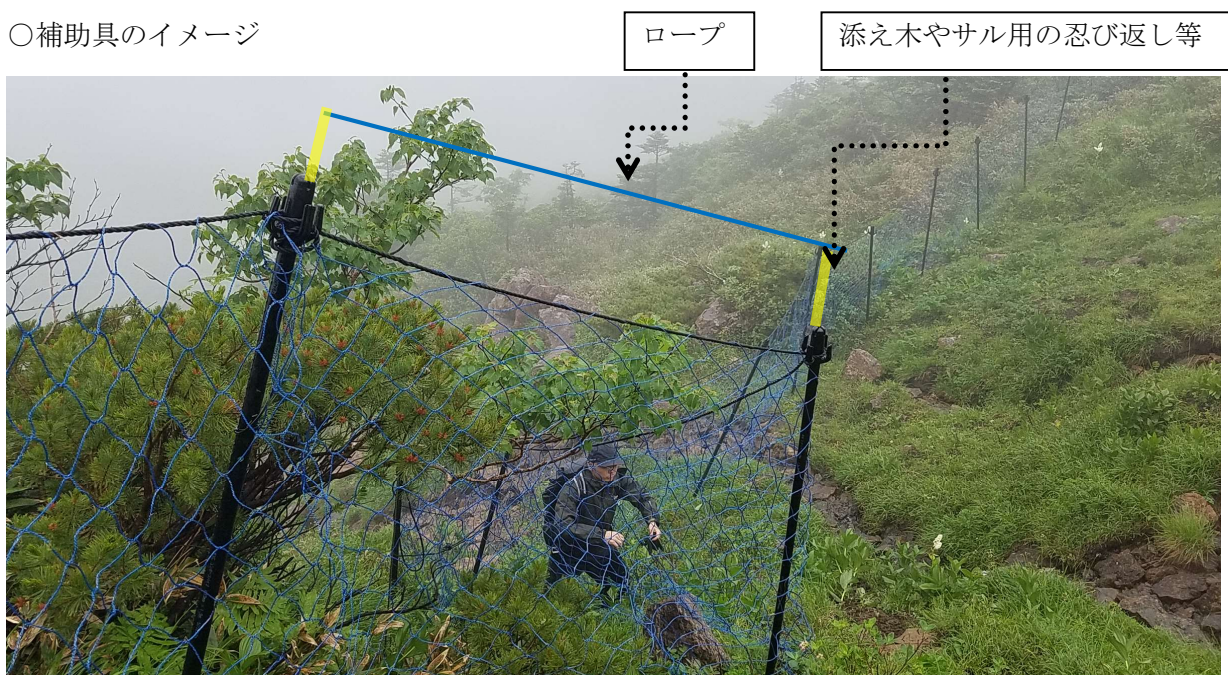
	項目	現状	課題	今後の対応案
a	効果調査	鈴木委員が実施	—	▶継続を依頼
b	設置始期	雪融け後に実施	年度により異なる	▶状況を注視して、年度ごとに検討 ▶設置時にしっかり張ることを継続
c	柵内侵入対策（設置方法）	高さ不足で侵入されている ※1	<ul style="list-style-type: none"> ・網のゆるみ ・傾斜面からの飛び越え ※2	▶設置後のメンテナンスにも留意（維持管理の体制整備が必要） ▶傾斜面では2列張りにしたり、網上部に追加の補助具を設置して更に高さを出す等、資材メーカーに情報収集等しながら検討。 ※3 ↓ 必要に応じて、現地で、資材メーカーから設置方法の技術指導を受ける。

※1 シカは2mの高さを飛び超える能力はあるが、積極的に飛び込むことは通常なく、1.8mの高さがあれば良いと言われており、現在使用している資材本来の支柱高（1.9m）を保てれば、容易な侵入は防ぐことができる。

※2 早池峰山（特に、小田越2合目）は傾斜も多く、斜面上側から下側へ飛び越えて入りやすい箇所がある。また、地中に大きな石もある等により基礎支柱を奥まで差し込めていないことや、経年荷重で基礎部が緩んでいるような場所は支柱が傾きやすいので、設置時に支柱の位置を変えることも検討が必要である。

※3 基礎支柱が不安定なために、シカが飛び越える際に網の上部に引っかかると、その重みで網のゆるみ等が発生し、柵の高さが落ちてそこから次々と侵入される原因になる。
よって、対策としては、1m以内に踏み切り点があるはずなので、外側にもう1列（低くても）柵を張ることや、追加の補助具で高さを補正する等、シカが飛び越えるのを嫌がる方法を検討する必要がある。

○補助具のイメージ



R4設置早池峰山防鹿柵

門馬握沢コース

ア 三陸北部署
2か所(30m、70m)設置

早池峰山のアカエゾマツ自生南限地

早池峰剣ヶ峰

早池峰山

避難小屋

(特) 早池峰山および

イ 遠野支署
3か所(50m、50m、150m)設置

ウ 三〜四合目
三陸北部署 440m設置

A 県
3か所(15m、35m、50m)設置

B 二合目
県 340m設置

河原の坊コース

小田越コース

C 県 70m設置

薬師岳登山道
小田越登山口コース

D 県 40m設置



R4設置早池峰山防鹿柵



現状と今後の取組について

1 早池峰地域のシカ問題

- ・ 早池峰山周辺地域ではシカの生息数が増加しており、高山植物への食害が増加している。
- ・ 食害を減らす方法は、捕獲（シカを減らす）か防護（シカから守る）しかほぼない。
- ・ 県では、平成26年度に、関係機関との情報交換及び連携を図るため、シカ対策部会を設置。
- ・ 関係機関と連携して捕獲と防護（柵設置）に取り組んできたが、食害は増加傾向にある。
- ・ これまでの取組について結果だけから評価すれば、捕獲、防護ともに量的不足といえる。
- ・ なお、食害が減らない最大の原因はシカの生息数の大幅な増加であり、根本的解決には捕獲してシカを減らすことが最優先事項と考えられる。（防護では早池峰山全体の植生被害を低減することができないため。）

2 現在までの取組状況

シカ対策部会設置（H26）以降、県が実施している取組は以下のとおり。

(1) 捕獲

- ・ シカ監視員による捕獲（H28～）
- ・ 早池峰山周辺地域での県捕獲事業（R1～）※捕獲重点地域として目標頭数を設定
- ・ ICTによる捕獲効率化の検証（R4～）

(2) 防護

- ・ 防鹿柵（H30～）

(3) その他（モニタリング等）

- ・ シカ監視員による監視（H28～）
- ・ 自動撮影カメラ（H29～）
- ・ 早池峰地域でのシカの糞による生息調査（R2～）
- ・ 希少種食害調査（H23、H29、R2、R3）※H23とH29は東北森林管理局が実施

3 今後の課題と対応

(1) 捕獲

- ・ 早池峰山に生息しているシカを減らすことが課題だが、登山者もいる夏場に銃やわなで捕獲を行うのは危険を伴うことや、山奥まで登山して捕獲をするのは効率も悪いため、シカ監視員による捕獲での頭数の大幅な向上は難しい。
- ・ よって、シカが低標高域に下りてから再び上がるまでの期間（概ね11～4月まで）に、集中的に捕獲することが重要であり、県の捕獲事業（11～2月）を中心に、シカの越冬地等での捕獲を推進していく。
- ・ また、令和5年度もICTによる捕獲効率化の検証を継続し、新たな捕獲方法の普及に向けて取り組む。

(2) 防護

- ・ 資料No.3 の、柵内への侵入対策等について関係者で情報共有しながら検討していく。

(3) その他（モニタリング等）

- ・ 早池峰地域におけるシカの推定生息数や植生の生息状況等の全体像の把握が不十分であるため、全体像を踏まえた目標設定と評価ができていない。
- ・ すなわち、①何頭捕獲すればシカの数が減るはずなのか、②どこにどんな希少植物が生息し、どこを優先的に守らなければいけないのかといったことが、検討できていない。
- ・ 今後は、シカの糞による生息調査や希少種食害調査等、科学的なモニタリング調査の結果に基づいて捕獲目標頭数等の計画を立て、目標の達成状況を評価し、その結果を踏まえて、次年度の計画を作成する順応的管理（PDCA サイクル等）をめざし、関係機関、団体における取組の連携を進める。

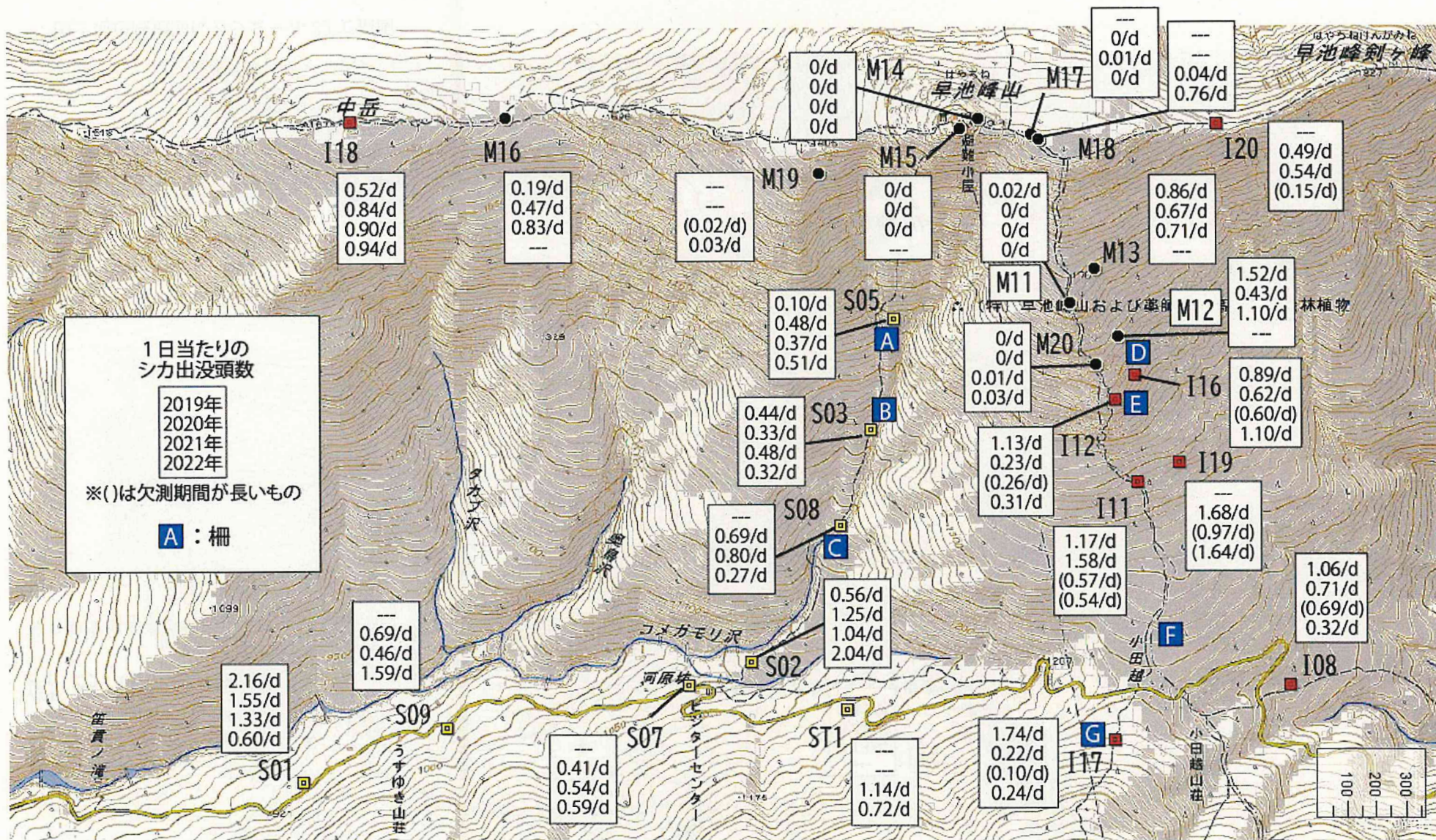
2022 年度 早池峰山シカ関連調査 報告

鈴木まほろ（岩手県立博物館）

- 5. 早池峰山センサーカメラ調査結果
 - 5 - 1 設置位置図・1日あたり出没頭数 p.2-4
 - 5 - 2 各カメラの撮影結果 p.5-6
 - 5 - 3 各カメラの月別・時間別頭数 p.7

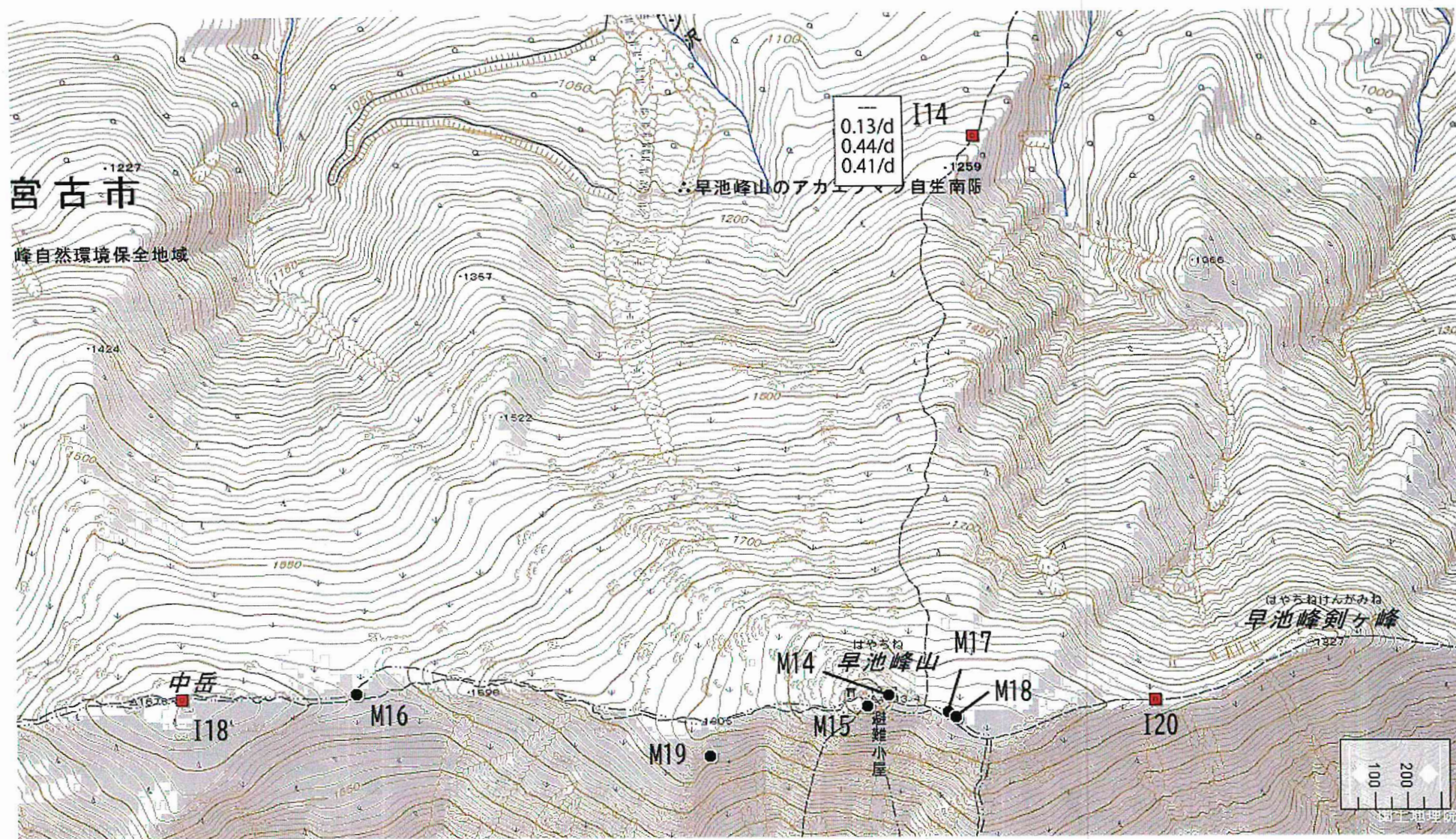
- 6. 防鹿柵内外の植生モニタリング結果 p.8-10

- 7. 食痕調査・植生モニタリング結果 p.11-13



国土地理院地図にカシミール3Dで描画

<北面>



国土地理院地図にカシミール 3D で描画



国土地理院地図にカシミール 3D で描画

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
I08	1180	4/22	10/29	191	0	191	8	33	5	16		62	0.32
I11	1370	5/7	10/27	174	54	120	21	37	0	7		65	0.54
I12	1530	6/4	10/27	146	0	146	6	15	0	24	柵23	45	0.31
I14	1230	5/23	10/16	147	18	129	24	26	1	2		53	0.41
I16	1530	6/4	10/27	146	24	122	68	26	0	40	柵7	134	1.10
I17	1280	5/15	10/9	148	0	148	11	18	0	7	柵	36	0.24
I18	1680	5/24	10/15	145	0	145	108	16	0	13		137	0.94
I19	1374	5/19	10/27	162	46	116	77	97	3	13		190	1.64
I20	1819	5/30	10/9	133	85	48	6	1	0	0		7	0.15
S01	940	5/5	10/30	179	0	179	24	62	7	15		108	0.60
S02	1065	5/5	10/30	179	22	157	46	187	43	44		320	2.04
S03	1250	5/24	10/12	142	0	142	28	10	2	5	柵	45	0.32
S05	1420	5/24	10/12	142	0	142	61	2	0	9		72	0.51
S07	1050	5/5	10/30	179	31	148	11	64	1	11		87	0.59
S08	1180	5/24	10/12	142	0	142	22	9	4	4	柵	39	0.27
S09	970	5/5	10/30	179	0	179	25	201	18	40		284	1.59
ST1	1130	5/24	10/30	160	0	160	27	49	6	33		115	0.72
M11	1650	7/1	10/7	99	0	99	0	0	0	0		0	0.00
M12	1590	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M13	1680	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M14	1900	7/1	10/7	99	0	99	0	0	0	0		0	0.00
M15	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M16	1630	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M17	1885	7/1	10/7	99	0	99	0	0	0	0		0	0.00
M18	1885	7/1	10/7	99	0	99	58	0	0	17		75	0.76
M19	1767	7/1	10/7	99	10	89	1	0	0	2		3	0.03
M20	1560	7/1	10/7	99	0	99	3	0	0	0		3	0.03

参考 2021年

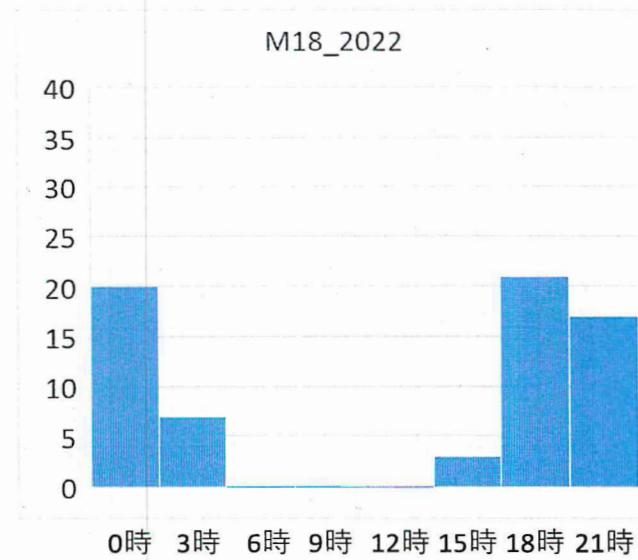
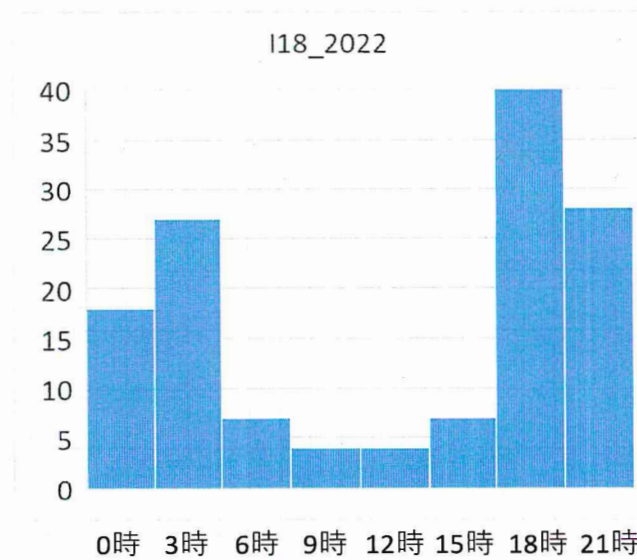
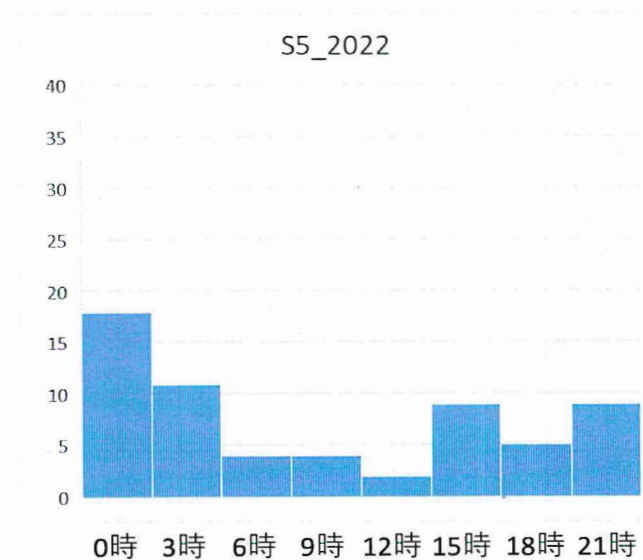
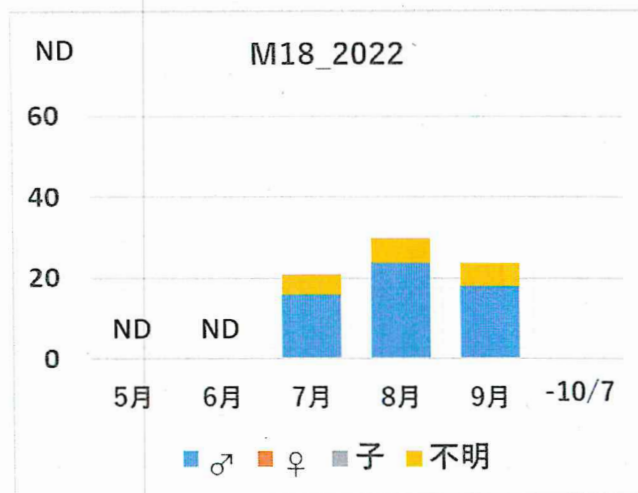
No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
I08	1180	5/21	10/23	156	68	88	22	25	6	8		61	0.69
I11	1370	5/21	10/23	156	72	84	16	24	0	8		48	0.57
I12	1530	5/31	9/22	115	65	50	0	7	0	6	柵	13	0.26
I14	1230	5/16	10/6	144	0	144	14	45	0	4		63	0.44
I16	1530	5/31	10/4	127	65	62	28	5	1	3	柵	37	0.60
I17	1280	5/21	10/23	156	72	84	1	6	1	0	柵	8	0.10
I18	1680	6/11	10/9	121	0	121	66	19	0	24		109	0.90
I19	1374	5/31	10/23	146	72	74	46	20	0	6		72	0.97
I20	1819	6/1	10/4	126	0	126	61	1	0	6		68	0.54
S01	940	4/23	10/28	189	0	189	59	127	26	39		251	1.33
S02	1065	4/23	10/28	189	0	189	42	119	15	20		196	1.04
S03	1250	5/26	10/14	142	0	142	38	17	2	11	柵	68	0.48
S05	1420	5/26	10/14	142	0	142	38	9	1	4		52	0.37
S07	1050	4/23	10/28	189	23	166	16	53	5	15		89	0.54
S08	1180	5/26	10/14	142	0	142	44	59	9	2	柵	114	0.80
S09	970	4/23	10/28	189	0	189	8	58	9	11		86	0.46
ST1	1130	5/12	10/28	170	0	170	56	90	4	44		194	1.14
M11	1650	6/21	10/18	120	0	120	0	0	0	0		0	0.00
M12	1590	6/5	10/22	140	0	140	129	7	0	18	柵	154	1.10
M13	1680	6/5	10/22	140	0	140	65	0	0	35		100	0.71
M14	1900	6/5	10/18	136	0	136	0	0	0	0		0	0.00
M15	1900	6/5	10/18	136	0	136	0	0	0	0		0	0.00
M16	1630	6/21	10/18	120	49	71	39	13	0	7		59	0.83
M17	1885	6/5	10/18	136	0	136	1	0	0	0		1	0.01
M18	1885	6/5	10/18	136	0	136	5	0	0	1		6	0.04
M19	1767	8/23	10/4	43	0	43	1	0	0	0		1	0.02
M20	1560	6/21	10/18	120	0	120	1	0	0	0		1	0.01

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビリス	リス	ヒト	他
I08	1180	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3	7
I11	1370	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	5	0
I12	1530	16	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117	0
I14	1230	4	1	2	6	1	0	14	0	7	0	1	186	0
I16	1530	3	17	2	1	0	0	1	0	2	0	0	23	0
I17	1280	0	1	6	3	0	1	2	0	1	1	0	1008	0
I18	1680	7	1	2	2	0	0	3	0	1	0	0	309	0
I19	1374	2	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0
I20	1819	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	184	0
S01	940	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
S02	1065	2	0	5	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
S03	1250	3	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	20	0
S05	1420	3	21	4	3	0	0	0	0	1	0	0	6	0
S07	1050	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	0	3	0
S08	1180	4	0	2	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0
S09	970	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	2	0
ST1	1130	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	44	0
M11	1650	15	0	1	1	0	0	1	1	5	0	0	3	0
M12	1590	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M13	1680	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M14	1900	44	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	6	0
M15	1900	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M16	1630	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M17	1885	10	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0	6	0
M18	1885	26	39	0	2	0	0	6	0	0	0	0	6	0
M19	1767	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
M20	1560	1	1	1	1	0	0	0	1	6	0	0	4	0

参考 2021年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビリス	リス	ヒト	他
I08	1180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
I11	1370	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
I12	1530	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I14	1230	2	1	5	16	1	2	14	0	0	5	1	124	4
I16	1530	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
I17	1280	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1022	0
I18	1680	4	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	224	0
I19	1374	0	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
I20	1819	1	1	4	0	0	0	0	0	13	0	0	951	0
S01	940	1	0	2	0	0	16	0	0	0	0	0	22	5
S02	1065	3	1	1	4	1	3	0	0	13	0	0	2	2
S03	1250	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	41	0
S05	1420	7	14	3	1	0	0	1	0	4	0	0	17	1
S07	1050	0	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	6	0
S08	1180	12	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1
S09	970	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ST1	1130	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	3
M11	1650	16	6	1	1	0	0	10	1	8	0	0	3	2
M12	1590	4	7	1	0	0	0	0	0	5	0	0	23	0
M13	1680	19	3	2	1	0	0	0	0	1	0	0	4	4
M14	1900	17	18	1	1	0	0	5	0	16	0	0	15	2
M15	1900	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
M16	1630	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
M17	1885	9	28	0	2	0	0	4	1	23	0	0	7	2
M18	1885	57	74	1	1	0	0	12	0	6	0	0	9	8
M19	1767	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
M20	1560	2	1	0	1	0	0	0	0	4	0	0	4	0

5-3 各カメラの月別・時間別頭数



6. 防鹿柵内外の植生モニタリング結果

<記録方法>

防鹿柵設置年に、内部に50cm四方の固定枠を3～5個設置した。また各柵に隣接する外部に50cm四方の固定枠を各3個設置した。毎年夏に、それぞれの枠の真上から写真を撮影して記録した。

1) 河原坊登山道

植生保護効果は2021年までの結果で明らかである。柵外では固定枠が流失し、柵内では植生が混み合いすぎて調査が困難なため、モニタリングは終了とした。

2) 小田越登山道 オサバグサ保護柵 (2019年設置)

<調査日>

2022年6月8日(水)(網上げ日)・2022年8月22日(月)

<結果>

変化が少なく、植生の回復速度が遅い。標高が低いためシカによる食害が始まってからの年数が長いこと、針葉樹林内のため日射量が少ないこと、雪解けが早く網上げ前にシカによる食害が入っていることなどが原因と推測される。

ただし、コイチョウランやオサバグサは開花しており、一定の保護効果はあると思われる。

3) 県道沿い 沢沿い保護柵 (2020年設置)

<調査日>

2022年8月22日(月)

<結果>

柵外ではシカ忌避植物が増加し、嗜好性植物が減少中である。柵内では変化が少なく、回復速度はやや遅い。標高が低いためシカによる食害が始まってからの年数が長いこと、沢沿いのため日射量が少ないことと、雪解けが早く網上げ前にシカによる食害が入っていることなどが原因と推測される。

ただし、柵外のような植生の減少は見られず、保護効果はあると思われる。

小田越 オサバグサ柵内外の植生変化



柵内 2020年8月



柵内 2022年6月



柵内 2022年8月



柵外 2022年6月



県道沿い 沢沿い柵内外の植生変化



柵内 2021年



柵内 2022年



柵外 2021年



柵外 2022年



7. 食痕調査・植生モニタリング結果

(1) 河原坊・小田越登山道 定例シカ食痕調査 (2015年～継続)

<調査日時・場所>

2022年7月19日(火) 10時～14時

河原坊登山道 登山口(標高1,050m)～1,250m付近

2022年8月22日(月)

小田越登山道 登山口(標高1,250m)～山頂(1,917m)～あきらケルン(1,805m)

<調査地点>

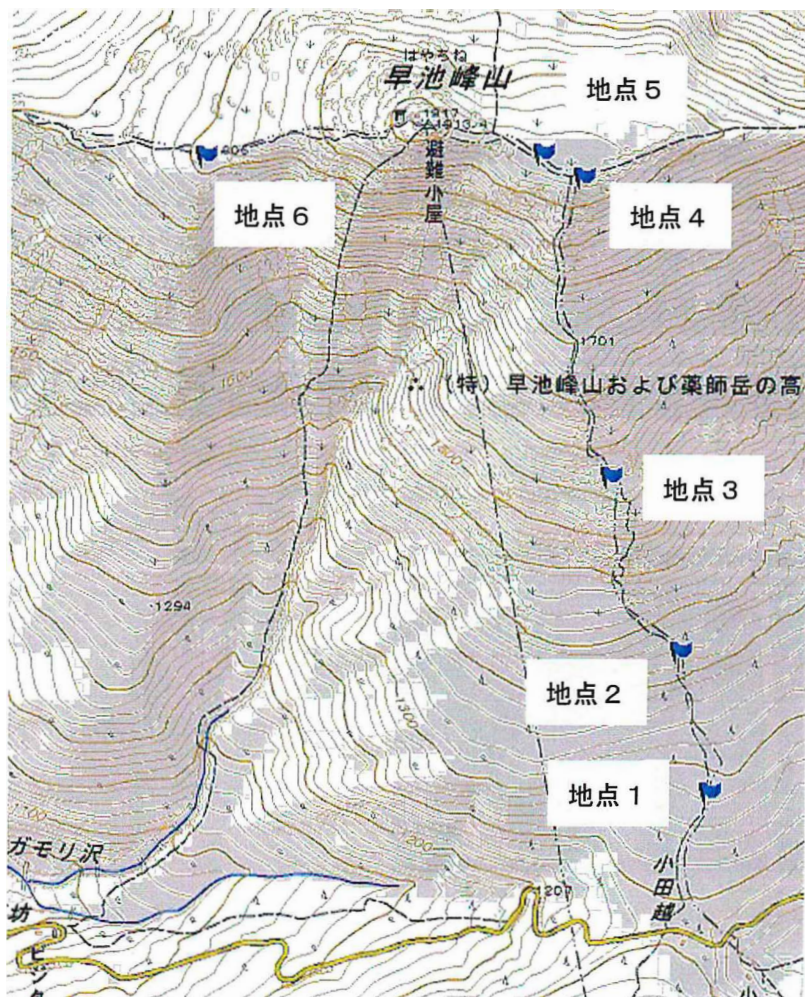


図1 食痕調査地点

<記録方法>

ルート上で草食動物による食痕のあった種と、その頻度の目視確認・写真記録を行った。

小田越登山道では、上記に加え、登山道沿いに設けた6つの固定地点において、定点間を1m間隔で撮影記録した。(地点3・6は2022年新規設定。)

<結果>

1) 河原坊登山道 (森林帯)

下部ではタニウツギなど低木の枯死が進行。上部の川沿いは落葉層の流失が始まっていた。

シカ嗜好性植物 (中型・大型セリ科植物やオニシモツケ、ゴマナなど)

・・・植生保護柵内でのみ開花サイズに達しており、柵外ではほぼ消失した。

シカ不嗜好性植物 (オオイタドリ・ホガエリガヤ・ミソガワソウ・ススキなど)

・・・2020年頃までは食痕が少なかったが、2021年からは多く見られ、一部は矮化が進行。

シカ忌避植物 (イブキジャコウソウやトリカブト属)

・・・食痕があった。

2) 小田越登山道

森林帯 (地点1・2) フロラの単純化と裸地化、低木の枯死が進行中。

シカ嗜好性植物 (ハリブキやゴマナ、ダキバヒメアザミなど)・・・消失したままであった。

シカ不嗜好性植物 (カニコウモリなど)・・・矮化し、繁殖サイズに達していなかった。

岩石地帯 (地点3・地点4)・・・食痕は発見されなかった。

雪田地帯 (地点5)・・・ネバリノギランやセリ科植物、コバイケイソウ等に多くの食痕が見られ、植生衰退が進行していた (下図)。

山頂周辺ではシロバナトウウチソウ等に食痕が見られた。

固有種については、ミヤマヤマブキショウマに食痕が各地で見られた。



2015年8月13日



2022年8月22日

図2 地点5の植生変化

(2) 北面門馬登山道

<調査日時・場所>

2022年9月12日(月)9時~16時

門馬登山道 登山口(標高650m)~1,700m付近

<結果>

登山口周辺・・・下層植生が完全に消失し、落葉層も流失していた。生態系崩壊の状態であった。

登山道沿い・・・標高が高くなるほど植生の残存率が高くなった。

5合目付近・・・忌避植物を除いて多くの草本が矮化し、2016年のフロラ調査で記録されたレッドリスト掲載種5種は消失し、保護柵内でしか見られなくなっていた。

6合目~7合目・・・コメツガ林内で低木の枯死が進行中。藪が減少している(下図)。

国指定希少野生動植物(北上山地固有種)のヤブヒヨウタンボクの最大の個体群があり、個体数は約80と見られる。2016年の調査では全く食痕が見られなかったが、今回は確認した全ての個体に食痕があり、半分程度の葉が食べられていた。数年以内に枯死する恐れがあり、緊急に保護する必要がある。

8合目~

・・・食痕は上部へ行くほど少なく、1,700m付近ではカニコウモリが開花サイズに達していた。



6合目付近。枯死した低木の幹が目立つ。



ヤブヒヨウタンボク。葉が食べられている。

早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要

林野庁 東北森林管理局

事業名	令和4年度事業内容	令和5年度予定
早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況・森林影響等調査	<p>【目的】 ニホンジカによる森林内での樹皮剥ぎ及び枝葉や下層植生への食痕が見られ、高山植物への食害が発生している早池峰山及び周辺地域において、岩手県と連携し、有識者等の意見を踏まえながら、モニタリング調査等を実施してニホンジカの生息状況を把握し、今後のニホンジカ対策等に資する。</p> <p>【方法】 ・自動撮影カメラによる生息状況を把握する。 ・平成29年度調査箇所とGPS位置情報が一致するように調査プロット(20m×20m)を30箇所設定しモニタリング調査を実施。森林環境の現況等から早池峰山地域全体の食害を明らかにする。 ・事業期間は7月～3月。</p> <p>【実施状況・成果】 ・自動撮影カメラ:7月下旬に設置し、積雪前の11月上旬に回収。 ・森林影響調査:9月～10月下旬に実施し被害状況等について確認。 ・2月17日、岩手県及び有識者等からなる調査検討委員会を開催予定。</p>	委員会での意見及び予算配賦に基づき検討
「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」による調査	<p>【目的】 東北森林管理局管内(東北5県)の国有林において、ニホンジカについての情報収集を強化するため、ニホンジカの生息域の現状、季節間移動や分布拡大等の変化、林業被害と自然植生への影響を把握し、地域関係者等と連携した効果的な被害防止対策を講じるための基礎資料とする。</p> <p>【方法】 森林管理署等の職員が林野巡視の際にニホンジカの目撃や痕跡を発見した場合はチェックシートに記入し、調査結果を整理。また、国有林に入林する請負事業体、猟友会等から目撃情報等を聞いた場合もチェックシートに記入する。調査結果は年度毎に集計のうえ、局ホームページで公表している。 (URL:http://www.ninya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/management/hozen/cheltukusiitosyuuukei.html)</p> <p>【実施状況・成果】 通年調査を継続して実施。岩手県内でのニホンジカの目撃情報は前年度と比較して微減である。</p>	引き続き国有林職員による調査を実施する

<p>植生保護柵設置による高山植生の保護 (早池峰山周辺森林生態系保護地域)</p>	<p>【目的】 ニホンジカによる高山植生への被害が発生している早池峰山周辺森林生態系保護地域において、固有種を含む高山植物への被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p>【方法】 有識者等の意見を踏まえて、優先的に保護が必要な箇所において、岩手県と連携して植生保護柵を設置する。</p> <p>【実施状況・成果】 植生保護柵の設置と既設部分の維持管理。 5～10月にかけて、河原の坊コース、小田越コース、薬師岳登山道に6箇所、延長は昨年同様に既設790m(6箇所)の設置を実施した。 10月下旬には積雪による破損防止のため、各植生保護柵のネットを格納。 設置箇所内にある高山植物へのニホンジカによる食害を防護し、植生保全が図られている。</p>	<p>有識者等の意見を踏まえて、関係機関と連携して実施予定</p>
<p>「早池峰国定公園内の国有林野における防鹿柵(植生保護柵)の設置に関する協定」の締結</p>	<p>【目的】 全域が国有林野である早池峰国定公園において、岩手県と国有林が連携して植生保護柵を設置し、被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p>【方法】 令和元年6月28日付で、岩手県環境生活部長、三陸北部森林管理署長及び岩手南部森林管理署遠野支署長の3者が協定を締結し、植生保護柵の設置等に係る連携強化及び入林届等の事務手続の簡素化が図られた。 同協定は令和4年4月1日に更新締結している。</p> <p>【実施状況・成果】 岩手県及び国有林が設置した植生保護柵の既設総延長は1,540m。</p>	<p>引き続き3者で連携して、植生保護柵の設置及び維持管理について取り組む</p>
<p>林道除雪による捕獲支援</p>	<p>【目的】 積雪期に国有林内の林道除雪を実施し、指定管理鳥獣捕獲等事業を支援する。</p> <p>【方法】 岩手県・県猟友会と除雪する路線を調整した上で、国有林の林道除雪を実施する。</p> <p>【実施状況・成果】 12月～3月に実施予定。 三陸北部森林管理署管内(宮古市):2路線、遠野支署管内(遠野市):10路線</p>	<p>12月～3月に実施予定</p>
<p>鳥獣被害対策協議会等への積極的な参画による地域との連携</p>	<p>【目的】 地域におけるニホンジカ対策のニーズの把握、地域と連携した対策の検討・実施。</p> <p>【方法】 遠野支署及び三陸北部森林管理署が地元の鳥獣被害対策協議会等へ参画。</p> <p>【実施状況・成果】 遠野支署は有害鳥獣駆除協議会での要望、また、三陸北部森林管理署は地元猟友会の要望を踏まえ、ツキノワグマの錯誤捕獲対策、ワナの貸与、国有林の林道除雪による捕獲支援、情報提供等を実施。</p>	<p>引き続き協議会へ参画</p>

<p>ニホンジカ被害防除事業(誘引捕獲)の実施</p>	<p>【目的】 市町村の鳥獣被害対策協議会等と連携を図り、森林被害の軽減を図るため、効率的なニホンジカの捕獲に取り組む。</p> <p>【方法】 誘引餌を用いたくくりわなによる捕獲を実施。</p> <p>【実施状況・成果】 ・遠野支署 花巻市鶏頭山国有林で8月～10月まで委託事業により誘引捕獲を実施し11頭を捕獲。 ・三陸北部署 宮古市立丸山国有林で9月～11月まで委託事業により誘引捕獲を実施し19頭を捕獲。</p>	<p>引き続き、同種事業を実施予定</p>
<p>国土保全のためのシカ捕獲事業</p>	<p>【目的】 近年、早池峰山周辺ではシカの生息数が増加し、同山周辺の奥地天然林等や山頂付近の植生に被害を与えている。また、早池峰山周辺におけるGPS首輪装着個体の追跡結果からシカの越冬地が明らかとなってきている。 本事業は、森林鳥獣被害対策高度化実証事業等で作成した「シカ捕獲の手引」(平成31年3月)の手順を踏襲して、捕獲情報を自動的に通知する技術等により効率的なシカの誘引捕獲を実施し、森林の持つ国土保全機能の維持増進を図る。</p> <p>【方法】 捕獲予定箇所においてカメラトラップ調査(センサーカメラ)、踏査等によりシカの出没状況や移動経路等を確認し、ツキノワグマなどが錯誤捕獲されにくいくくりワナを使用して錯誤捕獲防止対策を講じる。手引きや使用したわな、通知装置等の実用性と効率的な捕獲についての考察を行い捕獲効率を求めるほか、毎日見回りを行った場合と通知装置を使用して見回りの労力軽減を図った場合の捕獲努力量当たりの捕獲頭数を求め、比較を行う。</p> <p>【実施状況・成果】 遠野支署管内 花巻市鶏頭山国有林等で10月～3月の間、委託事業により実施。(※1/24現在 15頭捕獲)</p>	<p>引き続き、同種事業を実施予定</p>
<p>協定に基づいた市町村等へのワナ貸出しによるニホンジカ捕獲支援</p>	<p>【目的】 地域での捕獲対策を推進するため、ワナ貸し出しを行い、国有林及び地域によるニホンジカ対策に係る協力体制を構築する。</p> <p>【方法】 森林管理署、地元自治体及び地元猟友会等がニホンジカ対策に係る協定を締結し、くくりワナを市等を経由して地元猟友会等に貸与。地元猟友会等は捕獲実績を貸し出し元である森林管理署に報告。</p> <p>【実施状況・成果】 ・遠野支署 遠野市へくくりワナ87基貸与。4-12月で35頭捕獲。 花巻市有害鳥獣被害防止対策協議会へ、くくりワナ30基貸与。4-12月で13頭捕獲。 ・三陸北部署 宮古市鳥獣被害防止対策協議会へ、くくりワナ30基貸与。4-12月で1頭捕獲。</p>	<p>協定に基づいて引き続き取り組みを継続</p>

令和4年度の早池峰山保全活動

令和5年2月3日 早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ部会資料

- 1 巡視活動等（巡視、移入植物駆除、植生保護柵の設置等）
- 2 森林保護員（グリーンサポートスタッフ・GSS）の活動
- 3 令和4年度のニホンジカ対策の中間成果

※本報告は、令和4年度に岩手南部森林管理署遠野支署が実施した早池峰山保全対策について、三陸北部森林管理署の関連する取組も含めて取りまとめたものである。



消雪直後の植生保護柵のネット設置作業(5/19)



降雪前の植生保護柵のネット格納作業(10/27)

1 巡視活動等

(1) 巡視活動

(単位：人)

区分	薬師岳 標識設置	登山道合同 パトロール (6/3) 保全対策	早池峰山地域 合同パトロール (9/14) 保全対策
三陸北部署	-	荒天により 延期 7/15も延期	3
遠野支署	2		2
国有林 計	2		5

(2) 移入植物駆除活動

(単位：人)

区分	第1回 セイヨウタンポポ、オオバコ (6/17) 保全対策	第2回 オオハンゴウソウ (8/20) 保全対策
三陸北部署	4	3
遠野支署	7	4
国有林 計	11	7

(3) 植生保護柵の設置・撤去

(単位：人)

区分	植生保護柵の 設置 (5/19・ 6/14・6/22)	県防鹿柵の設置 (6/8)	県防鹿柵の撤去 (10/27)	植生保護柵の 撤去 (10/19・ 10/27)
三陸北部署	26	0	0	8
遠野支署	11	3	4	4
国有林 計	37	3	4	12

2 森林保護員(グリーンサポートスタッフ:GSS)の活動

遠野支署では6月6日～9月30日まで5名を配置。土日祝日を中心に延べ67人/16日活動

(1) 巡視・啓発活動



山頂でのゴミ拾い



登山者との交流



山カードがきっかけに

(2) 登山道・標識等の補修



保護林標識の補修



カーブミラーの点検



植生保護柵の点検

3 R4 早池峰山周辺地域におけるニホンジカ対策の中間成果

(1) 植生保護柵の設置による高山植物保護(遠野支署、三陸北部署、岩手県)

設置主体	延長
岩手南部森林管理署遠野支署	250m
三陸北部森林管理署	540m
岩手県環境生活部	750m
計	1,540m

成果1 早期の設置

融雪直後に設置

成果2 応援体制の確立

県の設置作業への応援

(2) 遠野支署によるシカの捕獲事業(早池峰山河原の坊地区で実施)等

設置時期・地区	くくりワナ (いのしか御用)	捕獲数
R4.8~10月(河原の坊)	20基	11頭

捕獲頭数(くくりワナ)増 (遠野支署)8頭 → 11頭
ツキノワグマの錯誤捕獲なし

局直轄捕獲事業により、冬期間に早池峰山周辺実施予定

(3) 捕獲支援 地方自治体等へのワナ(いのしか御用)の貸与(遠野支署・三陸北部署)

4~10月の捕獲頭数 42頭
(遠野市35頭、花巻市7頭、※宮古市0頭)
貸与したワナの数207基(遠野市147基、花巻市30基、宮古市30基)

ツキノワグマの錯誤捕獲なし

バネなくくりワナ「いのしか御用」の有効性を実証した。

(4) 捕獲支援 林道除雪による捕獲支援

令和4年度 遠野市内10路線(遠野支署) 宮古市内2路線(三陸北部署)を実施予定

(5) 国有林の見回り隊発足

国有林職員や請負事業体職員が、事業実施のついでにわなの見回りを実施